

資料提供	
令和4年10月20日	
担当課 (担当者)	教育総務課 (井本)
電話	0857-26-7927

令和4年度地方教育行政功労者表彰（文部科学大臣表彰）

1 表彰趣旨

地方教育行政において、その功労が特に顕著な教育委員会の委員に対して、その功に報いるとともに、地方教育行政の発展に資するため、文部科学大臣が表彰するものです。

2 被表彰者

氏名	年齢	主要経歴
やぶた くにひこ 藪田 邦彦	64歳	八頭町教育委員会教育長
べつもと かつみ 別本 勝美	64歳	北栄町教育委員会前教育長

※年齢は令和4年8月1日時点

3 表彰式

- ・日時 令和4年10月27日（木）午後0時20分から
- ・場所 東京都千代田区 文部科学省 講堂

4 被表彰者の主な功績

別添のとおり

被表彰者の略歴及び主な功績

藪田 邦彦（やぶた くにひこ）

略 歴	八頭町教育委員会教育長 (平成25年5月から現在)
主 な 功 績	<p>○学校教育に関する功績 至誠明敏にして優れた識見を持ち、自治体職員としての豊富な経験を活かしながら学校教育の推進にあたり、地域住民から厚い信頼を寄せられている。 平成25年5月に教育長に就任以来、8年以上にわたって多くの教育課題の解決に努めている。特に平成27年と平成29年に実施した町内小中学校の統合に際しては、校舎の大規模改修、通学方法の検討、複式学級の解消など調整の難しい諸課題に対して、地域の声を踏まえながらひとつひとつ取組を進め、新しい教育環境の整備に尽力した。 その後も、ICTを活用した授業や特別支援教育など、将来の八頭町を担う子どもたち一人ひとりが豊かな心や確かな学力、健やかな身体を育むことができるよう学校教育の充実に努めている。</p> <p>○社会教育に関する功績 八頭町の将来像である「人が輝き 未来が輝くまち 八頭町」を実現するための取組の柱の一つである「町民が、生涯にわたって学び、よりよく生きる」ことができるよう、文化協会・体育協会など社会教育団体の支援や図書館蔵書の充実などを行い、多様な学習機会や実践機会の場を提供した。 また、青少年の規範意識や社会性を高める取組を推進するため、青少年健全育成八頭町民会議を中心とした地域、学校、家庭の連携による体制づくりを助言した。</p> <p>○人権・同和教育に関する功績 教育長就任と併せて八頭町人権教育推進協議会の副会長に就任し、あらゆる差別の解消に向け、家庭、地域、学校などあらゆる機会を通じた人権教育・啓発等によって町民相互の理解を深めるとともに、確かなものの見方、考え方、そして行動力を培うための学習を重ね、一人ひとりの人権が尊重されるまちの実現に自ら取り組んでいる。</p>

別本 勝美（べつもと かつみ）

略歴

北栄町教育委員会教育長 （平成26年12月から令和4年3月）

主

○学校教育に関する功績

平成26年12月の就任以来、7年3か月に渡り、地域住民の理解を得ながら、学校現場の声にも積極的に耳を傾け、豊富な行政経験を活かし、多くの教育課題の解決に努めた。

確かな学力を育む教育の推進を図るため、国県が進める少人数学級の学級編成基準を上回る町独自の基準により少人数学級を推進し、きめ細やかな学習指導を行う基盤づくりを進めた。

また、特別支援教育の推進に向けて力を注ぎ、平成29年には町教育委員会事務局内に発達支援室を設置し、推進体制の構築を図った。

学校内においては、個別の支援を必要とする児童生徒への加配教員となる学習支援員を増員し、近隣他町の状況を大きく上回る一校あたり四人にまで充実させた。

教育施設の整備では、小中学校全校で、普通教室のエアコン整備や、環境にやさしいまち北栄町の実践にもつながる照明のLED化に取り組むなど、時流を捉え、かつ求められる教育環境整備をいち早く進めた。

な

○社会教育に関する功績

「コミュニティ・スクール」の取組を推進し、学校・家庭・地域が“めざす子ども像”を共有しながら、お互いにパートナーとして地域ぐるみで子どもたちを育てる持続可能な仕組みの礎を築いた。

図書館事業にも力を注ぎ、「今こそ絵本を！」事業をスタートさせ、平成28年度には県内初の事業として母子の豊かな時間と胎教効果を育んでもらうことを目指し、マタニティ・ファーストブック事業を開始するなど、絵本でつながるまちづくり事業を推進した。

功

○文化・スポーツの推進に関する功績

地域副読本・偉人マンガ・ふるさとカルタの作成など、未来を担う子どもたちが、自らのまちを知ることにより、地域への愛着を醸成する取り組みに力を注いだ。

文化財をより良い形で後世に引き継ぐため、保存・活用についてのビジョンを示す文化財保存活用地域計画を県内で初めて作成するなど文化財振興に尽力した。

また、困難な状況下においても諦めず取り組むことの大切さを説き、コロナ禍においても、オンライン成人式やバーチャルマラソン大会を実施するなど、各種事業活動を継続実施した。

績

○人権・同和教育に関する功績

部落差別のないまちの実現を目指し、令和3年度には北栄町部落差別の解消の推進に関する条例の制定に力を注ぎ、特にインターネットモニタリングの実施など、情報化の進展に伴った部落差別の状況変化にも対応した条例を制定した。

犯罪被害者支援にも注力し、犯罪被害者等が受けた被害の早期回復及び軽減を図ることを目的として県内市町村では未制定であった犯罪被害者等支援の条例化を実現した。

人権教育全般では、小中学校と町とが連携し、学校授業の中で町の人権施策を学習する機会を設け、また、学校参観日に併せた人権教育講演会を開催するなど、人権教育の裾野を広げる取組を推進した。